

指示の技術 「簡明に」

(前号続き)

「簡明さ」を身につけるのに一番いい方法は、日々の授業を修行の場とすることです。
私は以前次のようなことをしたことがあります。

授業の初めの3分間だけを、カセットテープで録音して一字一句テープおこしする。

さらに、

テープおこした記録をサークルで検討する。

これは、サークルのメンバー数名にしてもらいました。
出てきた記録はこんな具合でした。

「」は児童の発言。『』は教師の発言。

(チャイム終了)

『次の授業は何だったっけ?』

「こくごー！」

『ああそうか、そうだな。それでは日直さん。』

「気をつけ！これから5時間目の勉強を始めます」

「始めます！」

『前の時間は何をしたんだったっけ?』

子ども口々に言う。

『そうだな。読む練習をしたんだったな。今日もその続きをしよう。』

「えー」

『それじゃあ、「アレクサンダーとぜんまいねずみ」のところを開いて……』

さて、それでは試しです。

不必要な発言を消してみてください。

いくつくらい残ったでしょうか？

サークルでも同じことをしました。

実は、上の記録の ~ はすべて消えました。

号令さえいらんというのが、私たちのサークルの見解でした。(これは、人それぞれの考え方なのでなぜかはここでは論じません)

だけが、かるうじて残りました。

しかし、それさえ修正が加えられました。

『それじゃあ、「アレクサンダーとぜんまいねずみ」のところを開いて……』

『 ページを開きなさい。』

つまり、この授業記録の内容はほとんどが無駄だったわけです。

なぜ、こんなことまでしなければいけないのでしょうか。それは、やはり低位の子を混乱させないための授業をする、ということです。そして、ふたつ目には教室を荒れさせるスキを与えないということなのです。